

古伊万里の重さを見る 展覧会



会期 2021年6月23日(水)～9月19日(日)

※会期は予告なく変更となる場合がございます。

概要

やきものの重さに注目した展覧会。出展作品約70点を1点ずつ計量し、作品毎に示しました。手に取った際に感じるやきものの重さを考えることで、作品を鑑賞する際の指標となりましたら幸いです。

「重さを見る」とは

重力のある地球上に暮らしている生命および物体には重さがあります。我々が手に取るものには軽重問わず重さがあり、同じ種類のものでもデザインの違いやそれによって生じる重さの差異によって、用途面からみた使いやすさや、手に取った時の心地よさが異なります。

主な出展作品である古伊万里(こいまり／江戸時代に作られた伊万里焼)は、当時は今のような鑑賞用の美術品ではなく、実用品でした。目で見て分かる色や形、サイズはこれまでの展覧会でも表示していますが、今展では作品を1点ずつ計量し、作品毎に示しました。

隣り合う作品と比べながらご覧いただくことで、作品の重さを想像していただき、江戸時代の暮らしや今ならどう使うか等、様々な見方でお楽しみいただきたく存じます。

《展覧会紹介文》 どうぞご活用ください。

■24word

やきものの重さに注目し、古伊万里約70点をご紹介。

■90word

やきものの重さに注目した展覧会。出展作品約70点を1点ずつ計量し、作品毎に示しました。手に取った際に感じるやきものの重さを考えることで、作品を鑑賞する際の指標となれば幸いです。

みどころ

“今”だからこそこの展覧会

作品に触ると素地の質感、厚み、釉薬の滑らかさ、上絵具の盛り上がり、手取り、手馴染みなど多くを感じることができます。

今回の展覧会は、戸栗美術館がこれまで開催してきた「やきもの展示解説入門編」等といった、実物を手に取るイベントの実施が難しくなってしまったことを受けて企画しました。

手に取った際に感じるやきものの重さを考えることで、作品を鑑賞する際の指標となれば幸いです。



①色絵 瓜文 皿

伊万里（古九谷様式） 江戸時代（17世紀中期） 口径44.5cm 3.10kg

腰に段をつけて立ち上げ、口縁に縁錆（ふちさび）を施した大皿。計量すると3.10kgだが、手取りでは4~5kgほどあるように感じた。

どうやら、見込の黄色い絵具の範囲は、緑の絵具が施された広縁部よりも幾分か厚く作られており、重心が下がっているために実際より重く感じたのだろう。

実用品としての伊万里焼

江戸時代の伊万里焼の主用途は食器。今回計量した約70点は「手に取って使う」うつわを中心にピックアップしました。手にした際の感覚を数値のみで正確に伝えることは難しいのですが、隣り合う作品や身近なものとの比較によって新たな発見があれば幸いです。

②色絵 赤玉雲龍文 鉢

伊万里 江戸時代（17世紀末～18世紀初） 口径25.8cm 1.55kg

口縁を錚縁とした「兜鉢」と呼ばれる深めの鉢。金彩の華やかな本作はハレの日や宴の席等で使用されたのだろう。



③色絵 丸松竹梅文 蓋付碗

伊万里（古九谷様式） 江戸時代（17世紀中期） 通高7.5cm 約193.0g

胴・蓋共に丸文を配した蓋付碗。本来は異素材で作られていた器形のひとつで、もともと木胎の漆碗が主。磁器製のものは17世紀中期頃からあらわれ、18世紀以降に一定数作られるようになる。

海外輸出時代の伊万里焼

伊万里焼は当初、日本国内の富裕層向けに作られましたが、17世紀後半には海外輸出の時代を迎えます。西欧の生活様式に応じた様々な伊万里焼が旅立ち、王侯貴族の居城を飾りました。

輸出の際には藁で包まれて船に積まれましたが、公式の記録に残るだけでも、ほぼ毎年数千から数万点もの伊万里焼が運ばれた様子。一体、総積載重量はどれほどであったのでしょうか。



④色絵 牡丹文 蓋付壺

伊万里
江戸時代（17世紀末～18世紀前半）
通高70.5cm
14.05kg

肩が張った胴部と高めの頸、錚付き帽のような蓋が乗った「沈香壺」と呼ばれるタイプの西欧輸出向けの大型壺。作るのも大変だが、運ぶのも一苦労あったことだろう。

様々なタイプの伊万里焼の人形



⑤色絵 婦人像

伊万里（柿右衛門様式） 江戸時代（17世紀後半） 高39.2cm 1.15kg

国外に輸出され、皿や壺などとともに西欧の王侯貴族の屋敷を飾った伊万里焼の人形。特に本作のような婦人像は、国外のみならず国内でも賞讃されていた。

⑥色絵 ういろう売り人形

伊万里 江戸時代（18世紀前半） 高16.8cm 307.5g

類品は少ないが、日本国内向けに生産されたであろう歌舞伎の演目やその役者を題材としたタイプの人形。男性が肘をついている箱の側面には「ういろう」の文字がみえ、「外郎売り」を演じる役者をモチーフにしていると思われる。

※作品①～⑥の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。

美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里焼、鍋島焼などの肥前磁器および、中国・朝鮮半島などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



展覧会概要

※下記の内容は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承くださいませ。

名称：『古伊万里の重さを見る展覧会』

会期：2021年6月23日（水）～9月19日（日）

会場：戸栗美術館

所在地：東京都渋谷区松濤1-11-3

開館時間：10:00～12:00／13:30～16:30

（入館受付は閉館時間の30分前まで

／12:00～13:30は館内消毒等の為、閉館いたします）

※今展は夜間開館の実施はございません。

休館日：月曜日・火曜日

※8月9日（月・振休）は開館。

入館料：一般1,200円/高大生700円/小中生400円

※7月22日（木・祝）～8月29日（日）は小中学生は入館料無料。

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館

広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL : 03-3465-0070

FAX : 03-3467-9813

URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp